

所属・資格 英文学科・准教授

申請者氏名 一條 祐哉

研究課題		英語の事象命題・非事象命題の認知言語学的考察
報告の概要	研究目的 および 研究概要	英語の場所句倒置構文（(例) <i>In the room was John.</i> ）を考察対象とした。この構文は通常の語順と異なり、文頭にくるべき主語と文末にくるべき場所句が倒置し、「場所句+動詞+主語」の形式をとる。本研究では同構文について、事象命題的か、非事象命題的かという観点から意味論的分析を行った。
	研究の 結果	英語の場所句倒置文は、まずある側面では文頭の場所句が表す場所における主語指示物の存在や出現、消失を表す事象命題であることを示した。しかし、それに加えて同構文は通常の語順の文（(例) <i>John was in the room.</i> ）や話題化文（(例) <i>In the room, John was.</i> ）と異なり、文頭の場所句が主題を担い、残りの動詞と文末主語が叙述を担う非事象命題的側面もあることを説明した。この研究結果は「場所句倒置構文の事象性と非事象性」という論文の形にまとめた。
	研究の 考察・ 反省	今回の場所句倒置文についての研究は意味論的・認知言語学的分析にとどまったので、心理言語学的な分析も行い、説明原理の妥当性を検証したい。
研究発表 学会名 発表テーマ 年月日/場所 研究成果物 テーマ 誌名 巻・号 発行年月日 発行所・者	<p>※この欄は、本報告書提出時点で判明している事項についてご記入ください。</p> <p>「場所句倒置構文の事象性と非事象性」というタイトルの論文を某学会に投稿し、現在査読の結果待ち。</p>	